

中学校特別支援学級における将来の自立と社会 参加に向けたキャリア教育の充実に関する研究

—キャリア発達に応じた授業実践資料の活用を通して—

《補助資料目次》

- 【資料1】学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 【資料2】授業実践資料

令和5年3月
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 葛巻町立葛巻中学校
吉田 芽依子

【資料1】学習指導案

第1学年特別活動学習指導案

日 時：令和4年9月14日（水）5校時
令和4年9月16日（金）4校時
令和4年9月26日（月）5校時
令和4年9月30日（金）3校時

対 象：中学校知的障がい特別支援学級

1 単元名 「自分を見つめ、将来の生き方と進路について考えよう」

2 内容のまとめ

特別活動 「学級活動」

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
 - ウ 主体的な進路の選択と将来設計

3 単元の目標

(1) 自分や他者の個性を理解し、将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりを理解することができる。進路選択に必要な情報を得る方法などの技能を身に付けることができる。

〔知識及び技能〕

(2) 自分の好きなことやできることを踏まえ、将来の生き方について考え、そのために今頑張ることを考察し、意思決定することができる。進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 将来の生き方を描き、自分らしい生き方を主体的に選択しようとしている。

〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元について

(1) 生徒について

- ア 対象生徒は、中学校知的障がい特別支援学級1年生1名である。
- イ 伝えたい内容を考え、話をする力が対象生徒の一番の強みである。自分のことを話したり、分からないことを質問したりできる。
- ウ タブレットを使用した検索では、文字の入力やキーワード検索など支障なく行うことができる。
- エ 小学校では、行事や係活動を通して、積極的にコミュニケーションをとることの大切さや、係の仕事最後まで責任をもって行うことの大切さ等を経験してきている。中学校入学後は、体育祭を通して競技やダンス発表などに全力で取り組み、挑戦することの大切さを学んだ。
- オ 複数の教科を交流学級で学習している。学習内容が難しくなってくることに大変さを感じながらも、交流学級で他の生徒と共に学ぶ楽しさや達成感を味わうことができている。一方で、学年で設定された取組の時間数では、ねらいを達成することが難しい教科や場面も見られてきた。そこで、2学期から英語も特別支援学級で学習し、特別活動の学習も、学習内容によっては特別支援学級と交流学級での学習を組み合わせで行っている。

(2) 教材について

キャリア教育・学級活動用テキストの『中学校生活と進路』⁽¹⁾を参考に、自己理解と進路について学習を行う。将来に関する情報をまとめながら、進路選択に必要な情報を理解し、自分の将来像を描き、実現に向けた見通しをもつことができるように展開し、次年度のキャリアプランニングにつなげたいと考える。知的障がい特別支援学級在籍の生徒が進路学習を行う際に、対象生徒が自己理解や自分の将来の生き方について考えをもつことができるようデジタル教材を利用するなどの支援のポイントを考えた。対象生徒が自分や他者の個性を理解し、将来の生き方について考えることができるよう学習する。

(3) 指導について

対象生徒は、示された情報量が多いと集中が続かなくなることがある。また、話すことが強みである一方、聞く力や聞いたことを書く力、また、考えたことを書く力について支援が必要である。よって、教師との対話を基に考えていることを言語化し、それをプリントに書くという段階を踏むことが有効であると考え。これらのことから、本生徒の認知特性に応じて、支援のポイントとしてア、イのように指導を行う。

ア 視覚情報が多いと集中が困難なため、活動の内容に集中できるように、一度に目にする情報を減らす。

イ 自分の考えや気持ちを書くことへの苦手意識があるため、話すことが得意であることを生かして、対話を通し、内容を整理してから書く。

生徒が自分の特性について話題にし、自己受容に関して悩んでいる様子があるため、「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」⁽²⁾の「自己理解」の力を育てたいと考える。また、「キャリアプランニング能力」の要素に関しては、単元の学習を通して生徒の主体的な進路選択につながる力を身に付けることができるようにする。

単元の構成を考えるにあたり、自己理解を深めることと、上級学校見学とそれに関わって学習したことが将来の生き方の学習に活かされることをねらいとして、交流および共同学習における学びの場を考えた。交流及び共同学習を行う際、その目的によって以下①から④のように特別支援学級での学習形態を分類してみた。①交流学級での学習の前に、事前に学習したほうがよいと思われる内容を行う。(予習型) ②交流学級での学習の後、復習が必要と思われる内容を行う。(復習型) ③交流学級での学習内容から定着を重視するため内容を精選して行う。(定着重視型) ④個の生徒の実態に応じた内容を行う。(個別内容型) 本単元では、この中の①予習型と④個別内容型を用いて授業を実践する。

単元の初めに、自己理解のためのアンケートを行い、自己を振り返る。自分の特徴を知り自己理解を深めることにより、主体的な進路選択に向けた資質を養っていく。上級学校の見学と、その事前学習、事後学習を通して、単元の終わりに、将来の生き方について考え、そのために今できることを考えることを通して、自分らしい生き方を主体的に選択できるように進めたい。

(1) 岩手県中学校教育研究会技術・家庭科部会進路指導委員会(2021)『岩手県 中学校生活と進路』、株式会社実業之日本社

(2) 日野文貴・村社弘之・矢動丸博子・的野美穂子・外山千佳・児玉かおり・山田慧美・信時大輝・戸ヶ崎泰子 宮崎大学教育学部紀要(2016)『発達段階に応じた体系的なキャリア教育の試行』p. 42
日野文貴・外山千佳・矢動丸博子・瀬川大輔・河埜千佳・的野美穂子・水谷泰・黒木弘子・戸ヶ崎泰子 宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター(2018)『特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票の改訂』

「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」の「自己理解」の要素については、「自分のことができることが分かる」段階を目標に指導を行う。上級学校の見学を行うことから、進路について考える意義を理解し、見学の機会を有意義なものにしたいと考え、「働くことの意義」の要素に関して、単元の学習内容と関わって、「進路学習を通して卒業後は仕事をすることを理解する」「学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる」「自分の進路に関心をもつことができる」段階を目標に指導を行う。

(4) 研究との関わり

知的障がい特別支援学級在籍生徒のキャリア教育の充実のために、授業実践資料を作成し、授業実践を行う。「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を基に生徒のキャリア発達の実態把握を行う。この「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」から具体的な目標と育てたい力を決定し、指導を行う。

授業づくりに当たっては、授業実践資料を使用することで、生徒の実態に応じた指導になるようにする。また、交流及び共同学習において生徒の実態に応じて学びの場を検討し設定した。自己理解アンケートや進路情報の収集を行うことを通して、将来の生き方や進路に向けてこれからの中学校生活で頑張りたいことを考えることができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分や他者の個性を理解している。 ② 将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりを理解している。 ③ 進路に必要な情報を自ら調べている。	① 自分の好きなことやできることを踏まえ、自分について肯定的に捉えようとしている。 ② 進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えている。 ③ 自分の好きなことやできることを踏まえ、将来の生き方について考え、そのために今頑張ることを考え、意思決定している。	① 将来の生き方について考えようとしている。 ② 自分の進路に関心をもって意欲的に活動に取り組もうとしている。

6 特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票

対象生徒のキャリア発達段階について、担任と交流学級の担任及び研究担当者で協議し、網かけの部分にあるとした。本単元では「自己理解・自己管理能力」領域の「自己理解」と、「キャリアプランニング能力」領域の「働くことの意義」の力の育成をねらうこととした。現段階から矢印で示した太枠の段階に引き上げることを目標に指導を行う。

		小学校				中学校					
キャリア発達段階		職業及び生活にかかわる基礎的なスキル獲得の時期				職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期					
職業的(進路)発達にかかわる諸能力		段階				段階					
領域にかかわるスキル		1		2		1		2		3	
人間関係形成・社会形成能力	人とのかかわり(反応)	名前を呼んでいる人の方を見たり、体を動かしたりして反応する		名前を呼ばれて返事をすることができる		人とのかかわり(反応)	言葉かけや呼名で大きくはっきり返事をすることができる		指示を受けたときに適切な返事をすることができる		
	人とのかかわり(他者のよさ)	相手を見たり、身体接触をしたり、真似をしたりしながら、相手を意識することができる		相手を誘ったり、遊ぶ約束をしたりして、他者とかわらうとすることができる		他者理解	相手の気持ちを考えることができる		相手の気持ちを考えて行動することができる		
	集団参加	相手の顔を見たり、身体接触をして受け入れたりしながら、集団の中で過ごすことができる		相手の真似をしたり、手伝ってもらったりしながら友達と一緒に活動することができる		協力・共同	友達と協力して活動できる		集団の一員としての役割を理解し、協力して活動できる	集団の中で意見を聞いて、自分の意見を言うことができる	
	意思表示	「はい」「いいえ」「できる」「できない」「分かる」「分からない」等の自分の意思表示ができる		困難さを取り除くために、できないときに助けを求めたり、要求したりすることができる		意思表示	「おわかりました」「できません」等の報告ができる		相手の意見を聞いて、自分の意見を言うことができる	集団の中で意見を聞いて、自分の意見を言うことができる	
	あいさつ、清潔、身だしなみ	教師や保護者等と一緒にあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる		教師や保護者等から促されたとおりにあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる		場に応じた言動	自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる		様々な場面で、自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる	様々な場面で、目的に応じた行動ができる	
自己理解・自己管理能力	人とのかかわり(自分の良さ)	自分の名前、住所、所有物が分かる		自分の好きなことや嫌いなことがわかる		自己理解	自分のできることが分かる		自分の長所が分かる		
	ストレスマネジメント	ストレスに気づく		ストレス対処法を知る		ストレスマネジメント	ストレス対処法を活用する				
課題対応能力	目標設定	目標を教師と一緒に決めることができる		自分で達成可能で身近な目標を立てることができる		目標設定	目標に向け、取組方法が分かる		目標に向けた取組ができる		活動を振り返り、新しい目標を設定できる
	選択	2択より選ぶことができる		選択肢より選ぶことができる		選択(決定・責任)	やらなければならないことを理解し、取り組むことができる		選択したことを最後まで責任を持ってやり遂げる		自分の将来について考える(主体的)保護者と話し合って進路を選択できる
	ふりかえり	教師と一緒に簡単な自己評価をすることができる		自分の活動をふりかえり、目標に対する自己評価をすることができる		肯定的な自己理解	「できた」「まあまあ」「もう少し」などの自己評価を客観的にできる		自己評価をもとに、次にどうすればよいかを考えることができる		活動の場面での振り返りとそれを次に生かすことができる
キャリアプランニング能力	様々な情報への関心	人の話を聞くことができる		分からないことを質問することができる		情報の収集と活用	身近な人から知りたい情報を得ることができる		本・広告・メディアやパソコン等、様々な方法で情報を得ることができる		得た情報を適切に取捨選択できる
	社会のきまり	身近な人との約束を守ることができる		家や学校でのきまりを守ることができる		社会のきまり	学校でのきまりをまもることができる		社会にもルールがあることが分かる		社会のルールを守ることができる
	金銭の扱い	教師と一緒に買い物をするすることができる		お金が必要なが分かり、決まった額の買い物をして、金銭の扱いに慣れることができる		金銭の管理	金種が分かり、少額で決まった額の買い物ができる		教師と一緒に予算内で選んで買い物ができる		予算内で目的に応じた買い物ができる
	役割の理解と分担	学級・学年・異年齢集団等、人数や年齢層が異なる集団に参加し、友達と一緒に活動したり作業をしたりすることができる		積極的に様々な集団活動に参加し、作業分担や自分の役割が分かり、自分から取り組んだり役割を果たしたりすることができる		働くことの意義	みんなと一緒に職場体験学習に取り組むことができる		「働く」ことを意識し、興味関心を持って職場体験学習に取り組むことができる		課題意識をもって職場体験学習に主体的に取り組むことができる
	習慣形成	教師の働きかけによって次に何をすることが分かり、日課に沿って行動することができる		日常生活でのおよその予定が分かり、見直しをもって行動することができる		習慣形成	次に何をすることが分かり、できるだけ一人で日課に沿って行動することができる		一週間の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定等に従って行動することができる		
	夢や希望	教師と一緒に様々な活動を行い、好きなことや好きなものを見つけることができる		様々な活動を体験し、自分がしたいことを選ぶことができる		夢や希望	様々な仕事に関心を持つことができる		自分の得意なことをふまえて、将来就きたい仕事を考えることができる		
	生きがい・やりがい	自分が好きな活動を選んで取り組むことができる		自分が好きな活動を選び、進んで取り組むことができる		生きがい・やりがい	好きな活動をつきかぎに他の活動にも目を向け、意欲を持って取り組むことができる		活動を最後までやり通すことで、充実感や達成感を味わうことができる		様々な活動に意欲を持って取り組むことができる
						進路計画	福祉施設等での見学・体験をとおして、様々な職業があることが分かる		特別支援学校高等部や福祉施設での見学・体験をとおして、将来を考えることができる		学校卒業後の将来を見据え(それにつながる)中学校卒業後の進路を決定できる

7 指導と評価の計画（交流学級2時間 特別支援学級4時間）

「自分を見つめ、将来の生き方と進路について考えよう」

時間	特別支援学級の学習内容	交流学級の学習内容	目指す生徒の姿		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
1	予習型 T1:研究担当 T2:特支担任 自分を見つめ、自分を知ろう。 ○好きなことアンケートを行う。 ○性格や行動面について考える。 ○自分について分かったこと、気付いたことを確かめる。		自分の個性を理解している。	自分の好きなことやできることを踏まえ、自分について肯定的に捉えようとしている。	
2		自分を見つめ、自分を知ろう。 T:交流担任 ○好きなことアンケートを行う。 ○「自分のよさ」「友達のよさ」を発見し、個性として理解する。 ○自分について分かったこと、お互いの個性を知って感じたことを確かめる。	自分や他者の個性を理解している。		
3	個別内容型 T:特支担任 中学校卒業後の進路について学ぼう。 ○中学校卒業後にはどのような進路があるか確認する。 ○上級学校について知る。	いろいろな人の生き方を知って、自分の生き方を考えよう。 ○価値観について学ぶ。 ○いろいろな人の生き方を知る。 ○自分の生き方について考える。	将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりを理解している。	進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えている。	
4	個別内容型 T:研究担当 卒業後の進路へ向けて、知りたいことを考えよう。 ○進路アンケートを行う。 ○上級学校見学へむけて知りたいことを考える。		進路に必要な情報を自ら調べている。	上級学校について調べたことを基に、知りたいことを考えることができる。	自分の進路に関心をもち、積極的に取り組もうとしている。
5	個別内容型 T:研究担当 上級学校見学で聞いてきたことをまとめよう。 ○上級学校見学を振り返る。 ○知りたいことリストをまとめる。 ○進路アンケートを行う。			進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えている。	自分の進路に関心をもち、積極的に取り組もうとしている。
6		将来の進路について考え、そのために今できることを考えてみよう。 T:交流担任 ○自分の夢や、やってみたい仕事について考える。 ○進路について考え、そのために今できることを考える。		将来の生き方について考え、そのために今頑張ることを考えている。	将来の生き方について考えようとしている。

8 単元の指導

(1) 目標 自分を見つめ、自分を知ろう。

(2) 展開 1 / 6時 (特別支援学級 1 / 4時)

段階	学 習 活 動	・指導上の留意点 ○目指す生徒の姿 (特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票)
導入 8分	1 アイスブレイキングを行う。 2 単元の目標を確認する。	・教師の自己紹介。
	<div data-bbox="236 479 1232 533" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 【単元の目標】 自分を見つめ、将来の生き方と進路について考えよう。 </div> (1) 単元学習シートを確認する (2) 自分で進路を決める際に大切なことを確認する。 (3) 本時の学習課題を把握する。 <div data-bbox="236 922 807 976" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 【学習課題】 自分を見つめ、自分を知ろう。 </div>	・単元学習シートを配布し、自分についてや、将来のことについて考える単元であることを説明する。また、「自分を知る」ことが将来の夢や希望を見付けるきっかけになることを伝える。単元の見通しをもつことができるようにする。 ・本時は自分のことをよく知るための学習を行うことを伝える。 ・本時の流れの説明をする。
展開 37分	3 課題を解決する。 (1) 好きなことアンケートを行う。 ア 教師と対話しながら確認する。 イ 得意なことを確認する。 (2) 性格や行動面について確認する。 ア 教師と対話しながら確認する。 (3) 担任からの言葉を聞き、振り返る。 ア 中学校に入学して、生徒が頑張っていたことや生徒のよさを伝える。 イ 行事等の活動場面の写真を見ながら、その時のことを思い出し、会話をしながら行う。	<div data-bbox="821 981 1436 1016" style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;"> ■タブレットPC、大型提示装置 </div> ・アンケートはプレゼンテーションソフトを使用し、教師と一緒に一つずつ答えていく。生徒の回答を教師が声に出し、音声と視覚で確認する。 ・性格や行動面の傾向を見て、自分のマイナス面を挙げた場合、プラスの言葉で言い換えて生徒に返すようにする。 例：早くできない → 慎重派、丁寧 ・中学校入学後の行事等の写真を見て振り返ることを通して、様々な場面での自分の行動について振り返る。 (自分の長所が分かる。) (自分のできることが分かる。) ○自分の個性を理解している。 【知識・技能】
終末 5分	4 本時の学習を振り返る。 自分のことについて分かったこと、気付いたことを言葉にする。 <div data-bbox="268 1756 1391 1935" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈振り返りの例〉 今日の進路学習では、自分について考えた。好きなことアンケートでは、好きなものをたくさん言うことができた。中学校に入ってから行事を振り返って、いろいろなことを頑張ってきたなと思った。</p> </div>	○自分の好きなことやできること、性格や行動面について知ることを通し、自分について考え、肯定的に捉えようとしている。 【思考・判断・表現】
	5 次時の予告をする。	・次は交流学級で、好きなこと紹介を行うこと、友達の好きなことや性格や行動面について聞いてみることを伝える。

(1) 目標 中学校卒業後の進路について学ぼう。

(2) 展開 3 / 6時 (特別支援学級2 / 4時)

学 習 活 動		・指導上の留意点 ○目指す生徒の姿 (特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票)
導 入 8 分	1 単元の目標と本時の学習課題を把握する。 (1) 前時 (交流学級) の復習 ア 教師との対話 (2) 単元の学習の流れと本時の学習課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業 (交流学級) で、友達の良さについて、自分について分かったこと等、印象に残っていることはあるか尋ねる。 ・前時は自分や友達の良さについて学んだ。 ・進路に関する情報を集めてみよう。今知っていることはどんなことがあるか確認しようと提案する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">【単元の目標】 自分を見つめ、将来の生き方と進路について考えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【学習課題】 中学校卒業後の進路について学ぼう。</div>	
展 開 37 分	2 課題を解決する。 (1) 「進路について」のアンケート (2) 中学校卒業後にはどのような進路があるか確認する。 ア スライドで確認する。 イ 今から進路学習をすることの意義をスライドで確認する。 ウ 知っている上級学校について答える。 (3) 近隣の上級学校について知る。 ア 近隣の上級学校の写真を見る。 イ 今度見学に行く上級学校について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について詳しく学習する前にアンケートを取ることを伝える。一つずつ説明しながら行う。 ■大型提示装置 ・就職、高等学校、特別支援学校高等部等を示す。 ・さまざまな進路選択があることを知ることができるようにする。上級学校の種類の多さについて知ることができるようにする。 ・階段を上っていくイメージ図で、早い段階から情報を収集することの大切さを伝える。早くから動き出すと、情報をたくさん集められる、じっくり考えたり相談したりできる等。 ・知っている上級学校はあるか、どんなことを知っているか等を確認する。 (自分の進路に関心をもつことができる) (学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる) ・先輩からの情報で知っていることはあるか、見学に行くことについての今の気持ちを確認する。不安なこと等があれば聞き取り、次時に調べたり、見学のための質問を作成したりすることを伝え、見通しをもつことができるようにする。 ○上級学校について知ったことを基に、中学校卒業後の進路について考えている。 <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> <p>○将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりを理解している。 【知識・技能】</p>
終 末 5 分	3 本時の学習を振り返る。 〈振り返りの例〉 今日の進路学習では、中学校卒業後の進路について学んだ。卒業後はいろいろな進路があることが分かった。近くにもいろいろな高校があることが分かった。今のうちから調べておくのは大切だと思った。今度〇〇を見学するので、次の時間は見学にむけて準備をしたい。	
	4 次時の予告をする。	・次時は、上級学校見学について準備をしようと予告する。

(1) 目標 卒業後の進路へ向けて、知りたいことを考えよう。

(2) 展開 4 / 6時 (特別支援学級3 / 4時)

		学 習 活 動	・指導上の留意点 ○目指す生徒の姿 (特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票)
導 入 5分	1 単元の目標と本時の学習課題を把握する。 (1) 前時 (交流学級) の復習 ア 教師との対話		・前時の授業 (特別支援学級) で、上級学校について等で印象に残っていることはあるか尋ねる。 ・見学を明日に控えて今の気持ちを尋ねる。
		【単元の目標】自分を見つめ、将来の生き方と進路について考えよう。 【学習課題】卒業後の進路へ向けて、知りたいことを考えよう。	
展 開 40分	2 課題を解決する。 (1) 前時の復習 ア スライドで近隣の上級学校を確認する。 (2) 見学当日の流れを確認する。 ア 見学当日の日程を確認する。 (3) 上級学校の見学へ向けて、インターネットで上級学校のことを調べ知りたいことを考える。 ア ホームページを調べながら、知りたいことを教師と会話する。 イ アを基に、知りたいことリストを書く。		・本時の流れを確認する。 ・クイズ形式にしていくつか当てる。 ・見学に行ったら質問できるよう、知りたいことを考えようと提案する。 ・前日の就寝予定時刻、当日の起床時刻等、流れの確認をしながら、行動のイメージをもてるように確認する。 ■タブレットPC ・分かったことを書き出す。黒板に教師が板書したものを生徒がタブレットで撮影し、分かったことを整理する。 ・知りたいことについての画面のスクリーンショットを撮り、それを見返しながら知りたいことを教師と一緒に想起し、プリントに知りたいことを書くことができるようにする。 ・作成した知りたいことリストをコピーし、見学時に持参するように確認する。 (進路学習を通して、卒業後は仕事をすることを理解する。) (学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる。) ○進路選択に必要な情報を自ら調べている。 【知識・技能】 ○上級学校について調べたことを基に、知りたいことを考えることができる。 【思考・判断・表現】
	3 本時の学習を振り返る。 〈振り返りの例〉 今日の進路学習では、〇〇学校について調べた。ホームページを見たら楽しそうで、早く見学に行きたくなった。質問を考えることができたので、しっかり聞いてこようと思う。		
終 末 5分	4 次時の予告をする。		・次時は、上級学校見学の振り返りを行うと予告する。 ・明日のためにしっかり準備できたので、自信をもって参加してくるよう伝える。

(1) 目標 上級学校見学で聞いてきたことをまとめよう。

(2) 展開 5 / 6時 (特別支援学級4 / 4時)

学 習 活 動		・指導上の留意点 ○目指す生徒の姿 (特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票)
導 入 5 分	1 単元の目標と本時の学習課題を把握する。	・単元の目標の確認する。
	【単元の目標】自分を見つめ、将来の生き方と進路について考えよう。	
	【学習課題】上級学校見学で聞いてきたことをまとめよう。	
展 開 32 分	2 課題を解決する。 (1) 上級学校見学を振り返る。 ア 上級学校見学の感想を話す。 イ 知りたいことリストをまとめる。 ウ 完成させた知りたいことリストを確認する。 エ 家庭で話し合ったことなど確認する。	・見学時の写真を見ながら振り返ることができるようにする。 ・前時に作成した知りたいことリストに沿って写真を見ながら確認し、プリントに得た情報を書くことができるようにする。 ・見学で質問できたことに自信をもつことができるように振り返る。 ○自分の進路選択に必要な情報をまとめ、中学校卒業後の進路について考えている。 【思考・判断・表現】 ・スライドで今までの単元で学習してきたことを振り返る。①と②についてよく取り組んだこと、今後も家族や先生と③相談しながら考えて行くことを確認する。 自分で進路を決めるために大切なこと ① 自分のことをよく知る ② 情報を集める ③ 相談する ・単元の学習を通して、自分の変容を把握することができるようにする。 (自分の進路に関心を持つことができる。) (学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる。)
	(2) 今までの単元の学びを振り返る。	○自分の進路に関心をもって意欲的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
	(3) 「進路について」のアンケートを再度行う。	
終 末 8 分	3 本時の学習を振り返る。	・3年生で行くことが多い上級学校見学であるが、1年生で見学してきたこと、調べたり知りたいことを考えたりすることができたことを振り返る。進路について早くから考えて行くことは大切であることを伝える。
	<p>(振り返りの例)</p> <p>上級学校見学で分かったことを振り返ることができた。寮生活が不安だったが、楽しいこともあるということが分かった。中学校では、生活の時間で植物を育てることや、行事に参加することなどが、〇〇学校の生活につながりそうだと思った。なので、みんなと一緒に行事に一生懸命取り組むようにしようと思った。</p>	
	4 次時の予告をする。	・次時は、交流学級で将来のために今頑張ることを考えると伝える。

